

がんばろう!
～首都圏から

足立発 東北支援シャツ

福島企業の発注、経営者ら・区連携

東日本大震災や福島第一原発事故に見舞われた被災地の縫製メーカー支援に、足立区や区内の企業が動き出した。区が13日に発注し、福島県の縫製メーカーがポロシャツを生産。そのシャツに足立区内の刺繍会社が復興を願う「不死鳥」のデザインを縫いつけ、義援金付きの価格で区が7月に販売する予定だ。

ポロシャツ生産は、足立区画。区内の企業と東北の区内の40代の経営者らで作業を結びつけたと考えているグループ「A+friends」が企画。協賛していた。



「不死鳥」の刺繍加え販売へ

エー・フレンズ中心メンバーの一人、松本照人さん(44)が社長を務める「マツブン」(六町4丁目)が発注先となる工場を東北の被災地で探し、足立区はマツブンを通して13日、福島県田村市の縫製メーカー「エスポール」に500枚を発注した。マツブンが足立区で不死鳥の刺繍を加えて完成させ、7月に発売する。

福島県以外に、岩手県陸前高田市など他の被災地のメーカーも探したが、津波被害などで工場が操業できない状態だったという。

エー・フレンズは3月の震災を機に、東北の人たちを応援したいと集まった会社経営者ら約30人で構成される。2009年8月に区内の若手経営者らが結成し、会社経営などを月1回程度話し合ってきた異業種交流会「足立研究会」がも

福島県の「エスポール」が作ったポロシャツを持つ松本照人さん(足立区六町4丁目の「マツブン」)

とになった。

エー・フレンズは商品を作って売り、収益の一部を義援金として送ることを決めた。刺繍つきポロシャツの生産と販売を企画。最初の500枚は4月末、松本さんらが中国製のポロシャツを発注。マツブンが刺繍をほどこし、5月初旬に1枚2500円で発売してほぼ完売。義援金計18万円を日本赤十字社に寄付した。

今回、福島の縫製工場に発注した500枚はその第2弾となる。足立区は一部を区職員や協力する企業に販売する予定。ポロシャツは被災地支援の意味合いもあって1着3500～3800円となる予定で、購入希望は足立区報道広報課で受け付ける。

被災地と区内の企業をつなぐことについて足立区は「今回の例がモデルとなつて、こうした民間と民間との連携が進んだらうれしい。次はぜひ行政抜きでやってほしい」と話す。松本さんは「第2弾は中国ではなく東北の工場で、という足立区の働きかけが大きかった。勉強になった」と話している。(秦忠弘)